

エコアクション21 環境経営レポート



対象期間 2019年4月～2020年3月

発行日 2020年5月27日

改訂日 2020年8月31日

 **SMC プレコンクリート 株式会社**

目 次

1. 組織の概要	1
2. 対象範囲	1
3. 環境経営方針	2
4. 環境経営目標	3
5. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	4
6. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価	7
7. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	11
8. 火災訓練状況	13
9. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟など	14
10. 代表者による全体の評価と見直し・指示	14

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

SMCプレコンクリート株式会社

代表取締役社長 多田 耕二

(2) 所在地

本店：東京都台東区根岸一丁目2番17号 住友不動産上野ビル7号館3階

栃木工場：栃木県下野市仁良川1700番地

茨城工場：茨城県常総市大生郷町6138番地8

茨城支店：茨城県常総市大生郷町6138番地8

北関東営業所：栃木県下野市仁良川1700番

いわき営業所：福島県いわき市平童子町4番地18 いわき建設会館4階

仙台営業所：宮城県仙台市青葉区大町1丁目1番6号 第1青葉ビル5階

郡山出張所：2019年12月31日閉所

(3) 環境管理責任者氏名及び事務局連絡先

環境管理責任者 安全環境副部長：西川 昌徳 TEL：03-6458-1863 FAX：03-5824-9056
Eメール：m_nishikawa@precon.co.jp

事務局 管理部長：相原 幸雄 TEL：03-6458-1861 FAX：03-5824-9056
Eメール：yaihara@precon.co.jp

(4) 事業活動の内容

建築物の設計・施工及びプレキャストコンクリート部材の設計・製造

(5) 事業の規模

主要製品の生産量・出荷額 総売上高86億円／2019年度

表-1.1 事業所の従業員数と延床面積

	本店	いわき営業所	仙台営業所	栃木工場 北関東営業所	茨城工場 茨城支店	工事部
従業員数	42名	2名	2名	60名	37名	10名
延床面積	356 m ²	37 m ²	40 m ²	14,616 m ²	11,686 m ²	「本店」の延床面積に含まれる

2. 対象範囲

(1) 登録組織名及び対象範囲

- 登録組織名：SMCプレコンクリート株式会社
- 対象範囲：全組織・全活動

3. 環境経営方針

SMC プレコンクリート株式会社 環境経営方針

環境理念

SMC プレコンクリート株式会社は、環境に配慮した技術開発や設計提案を通して、建設活動に対する多様な要請に応え、地球規模での環境への貢献が求められていることを認識し、環境の保全、維持、改善に積極的に取り組めます。

環境方針

経営における課題とチャンスとを踏まえるととともに、次を行動指針として取り組めます。

1. 節電と省エネルギー化を進め、CO₂排出量の削減・地球温暖化防止に努めます。
2. 資源の有効利用を図り、廃棄物の削減と再生利用に努めます。
3. 節水活動に取り組み、水使用量の削減に努めます。
4. 化学物質の適正管理に努めます。
5. 環境に配慮した建設工事、プレキャストコンクリート部材の製造・販売に努めます。
6. 環境関連の法令・条例等を遵守し、継続的な環境活動の改善を図ります。

全従業員及び当社で従事する全ての人々に対して環境方針の周知を図ると共に、協力会社に本方針の周知と協力を徹底します。

改定日 2019年10月1日

 **SMC プレコンクリート株式会社**

代表取締役社長 多田耕二

4. 環境経営目標

(1) 2019年度の環境経営目標

単年度の環境経営目標として、次のa.～f.を定めた。

- a. CO₂排出量：購入電力、ガソリン、軽油、A重油及びプロパンガスの使用量を2%削減
- b. 廃棄物排出量：一般廃棄物及び産業廃棄物排出量を2%削減
- c. 水使用量：水の使用量を2%削減
- d. 化学物質使用量：使用数量管理の徹底
- e. グリーン購入：事務用品購入額に占めるグリーン購入額を2%増額
- f. 工事及び製造：環境対策工事、環境対策部材製造の提案又は実施した件数2以上

(2) 中期環境経営目標

2022年度までの中期環境経営目標として、次のa.～f.を定めた。

- a. CO₂排出量：購入電力、ガソリン、軽油、及びプロパンガスの使用量を5%削減、
但し、A重油使用量は基準年使用量以下とする
- b. 廃棄物排出量：一般廃棄物及び産業廃棄物排出量を基準年排出量以下とする
- c. 水使用量：水の使用量を基準年使用量以下とする
- d. 化学物質使用量：使用数量管理の徹底
- e. グリーン購入：事務用品購入額に占めるグリーン購入額を10%増額

(3) 基準年の環境負荷項目と環境負荷量

基準年は、2017年度（2017年4月～2018年3月）とし、その環境負荷総量を表-4.1に示す。本店の実績値は、本店事務所と営業所（仙台・いわき）を加算した値である。

表-4.1 基準年の環境負荷項目と環境負荷量

テーマ	環境負荷項目	2017年度の環境負荷量					
		単位	全社	本店	栃木工場	茨城工場	工事部
CO ₂ 排出量	購入電力	kWh	2,158,356	46,904	1,279,480	803,336	28,636
	ガソリン使用量	L	24,276	11,379	11,035	1,334	528
	軽油使用量	L	64,762	0	56,860	7,841	61
	A重油使用量	L	385,900	0	0	385,900	0
	プロパンガス使用量	kg	1,851	0	1,835	注116	0
	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	2,059	49	638	1,357	15
廃棄物排出量	一般廃棄物排出量	kg	10,542	3,576	4,200	2,766	0
	産業廃棄物排出量	ton	7,893	0	5,211	2,379	303
総排水量	水使用量	m ³	66,144	0	43,559	21,902	684
化学物質	化学物質使用量	kg	85	0	16	69	0
グリーン購入	グリーン購入の推進	%	42.0	71.4	25.3	38.3	20.6
工事及び製造	環境対策工事、環境対策部材製造の提案又は実施した件数	件	2	全社として把握			

注1：茨城工場のプロパンガス使用量は、総量把握とし削減目標は設定しない

※ CO₂排出係数は下記の調整後の係数を使用した。

本店、工事部：2017年 東京電力エナジーパートナー(株)（参考値）事業者全体 0.474 kg-CO₂/kWh

栃木工場、茨城工場：2017年 リコージャパン(株)（参考値）事業者全体 0.359 kg-CO₂/kWh

5. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

(1) 実施体制

環境経営システムの実施体制は、図-5.1の通りである。

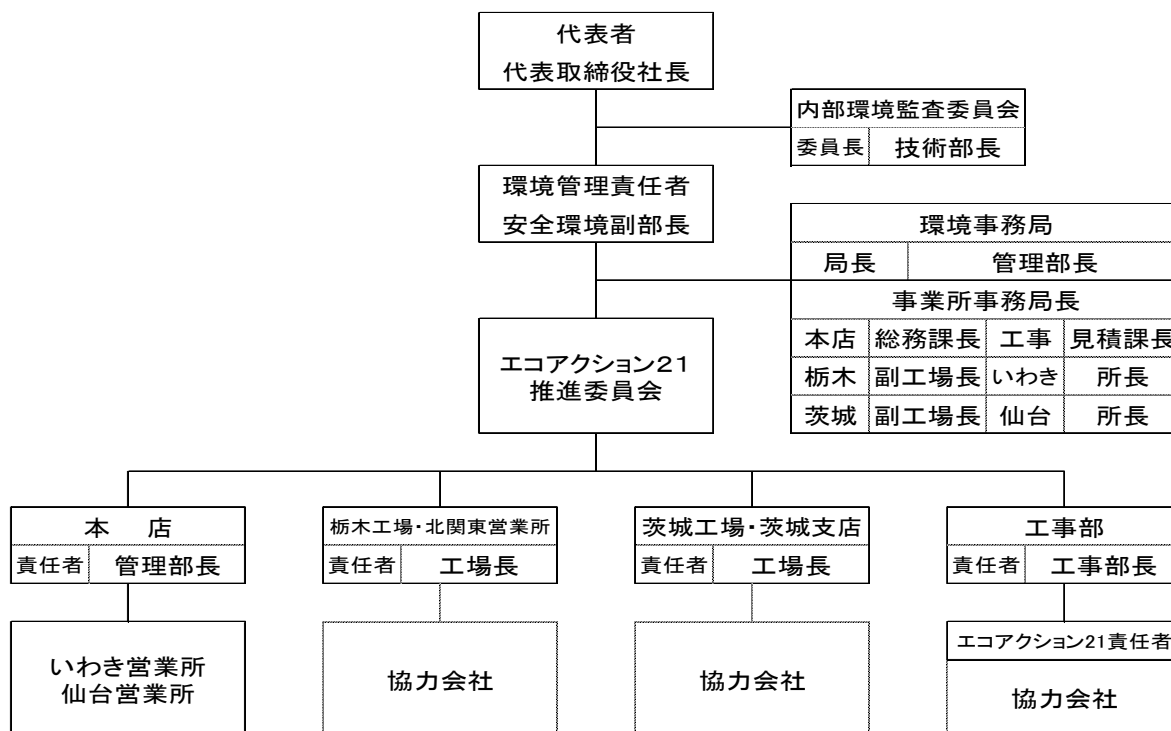


図-5.1 環境経営システムの実施体制

(2) 実施体制における役割・責任及び権限

環境経営システムの実施体制における役割・責任及び権限は、表-5.1の通りである。

表-5.1 実施体制における役割・責任及び権限

	役割・責任・権限
代表者（社長）	a. 『環境経営方針』を定める b. 環境経営システムの実施及び管理に必要な経営資源（人員、設備、費用等）を用意する c. 『環境経営レポート』を承認する d. 全体の評価と見直しを実施し、必要な指示を行う
環境管理責任者	a. 環境経営システムの構築・運営し、維持するための責任及び権限を有する b. 社外からの環境に関する苦情や要望に対する必要な対応・回答を行う c. 環境経営計画の進捗状況を確認・評価する d. 全体の見直しに必要な情報を代表者へ報告する e. 『環境経営レポート』を確認する
環境事務局	a. 環境管理責任者及びサイト責任者の補佐、E A 2 1 推進委員会の事務局 b. 各月の資料取りまとめ及び整理を行い各担当者への周知、必要に応じて資料等を配布する c. 『環境経営レポート』を作成し、公開する（事務所に備え付けと地域事務局への送付）
E A 2 1 推進委員会	a. 環境経営目標・環境経営計画を審議する b. 環境活動実績を確認し評価する
サイト責任者	a. 環境経営方針及び各自の役割、責任及び権限をサイト内従業員へ周知・徹底する b. 事務局と協議し、教育・訓練を実施する c. 『環境経営計画』に従った取り組みを実施し、必要な記録を作成し報告する
エコアクション21責任者	a. 環境経営計画の実施・環境関連法規を遵守する b. 新規入場者教育、近隣住民とのコミュニケーション、緊急事態対応
内部環境監査委員会	a. 環境に関する内部監査を計画する b. 環境に関する内部監査を実施し結果を報告する
全従業員	a. 環境経営方針を理解し、環境への取り組みの重要性を自覚する b. 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する

(3) 環境経営計画に基づき実施した取組内容

各サイトの2019年4月から2020年3月までの、環境経営計画及び環境経営計画に基づき実施した取組内容を表-5.2から表-5.5に示す。

表-5.2 環境営計画に基づき実施した取組内容【本店】

環境負荷項目	単位	基準年実績 2017年度	2019年度目標		環境経営計画	実施した取組内容
			(%)	目標値		
購入電力	kWh	46,904	△2	45,966	1. ノー残業デーを確実に実施する 2. 現状業務分析による業務改善策の立案と導入 3. 昼休み時、不必要時の事務所消灯の徹底 4. エアコンの設定温度目安の設定 (夏期：28℃、冬期：20℃) 5. クールビズ、ウォームビズの取組継続	・昼休み時や不必要時の事務所消灯を徹底した。 ・クールビズを実施した。
ガソリン 使用量	L	11,379	△2	11,151	1. エコ安全運転講習会への参加 2. 営業車両利用時の業務効率化 (効率的利用経路)	出来るだけ公共交通機関を利用した
一般廃棄物 排出量	kg	3,576	△2	3,504	1. エコ関連講習会・行事への参加 2. 両面・縮小コピーの有効利用 3. 社内届出、会議のペーパーレス化に取組む	会議のペーパーレス化を実施した
グリーン購入 の推進	%	71.4	+2	72.8	1. グリーン購入法適合品 (リサイクルカット判コピー用紙・文具)・の購入徹底	グリーン購入法適合品の購入を徹底した

表-5.3 環境営計画に基づき実施した取組内容【栃木工場】

環境負荷項目	単位	基準年実績 2017年度	2019年度目標		環境経営計画	実施した取組内容
			(%)	目標値		
購入電力	kWh	1,279,480	△2	1,253,890	1. 昼休み時、不必要時の事務所、工場内、休憩所の消灯の徹底 2. エアコンの設定温度目安の設定 (夏期：28℃、冬期：20℃) 他クールビズ、ウォームビズの取組継続 3. デマンド記録等による分析から消費電力の把握と対応策の検討及び取り組み 4. 工場内照明の見直し及びLEDの積極的な導入	1. 昼休み時、不必要時の事務所、工場内、休憩所の消灯を徹底した 2. 体感温度の目安を厳守した 3. 工場内照明のLED化を一部実施した
ガソリン 使用量	L	11,035	△2	10,814	1. 営業車両利用時の業務効率化 (効率的利用経路) 2. エコ安全運転講習会への参加 3. アイドリングストップの励行 4. 入れ替え時のハイブリッド車への積極的な導入	1. 営業車両の効率的に利用した 2. アイドリングストップを実施した
軽油使用量	L	56,860	△2	55,723	1. プラント周辺でのコン待ち待機時のアイドリングストップの徹底 2. 場内速度の厳守 3. 無用な空ふかし厳禁 4. 使用台数の見直し	1. コン待ち待機車両のアイドリングストップの徹底した 2. 場内速度の厳守を実施した 3. 使用台数の見直しを実施した
プロパンガス 使用量	kg	1,835	△2	1,798	1. 外気温管理による養生有無の適正管理 2. 断熱効率の良い養生シートの使用又は養生方法を検討する 3. 蒸気漏れ等、設備からのロス低減	1. 外気温による適正管理を実施した 2. 蒸気漏れ等のロス低減をチェックした
一般廃棄物 排出量	kg	4,200	△2	4,116	1. 個人ごみの持ち込み廃棄厳禁 2. コピー用紙の有効利用の推進 3. OJTによる削減意識の向上	1. 個人ごみ持ち込み廃棄を禁止した 2. コピー用紙の有効利用を推進した
産業廃棄物 排出量	ton	5,211	△2	5,107	1. 廃棄物分別の強化 2. 定期的な処分費の公開による意識改革実施 3. リデュース、リユース、リサイクルの3R活動推進 4. コンクリートロスの低減、資材発注時の無駄の排除	1. 廃棄物の分別を積極的に実施した 2. コンクリートロスの低減、資材発注時の無駄の排除を徹底した
水使用量	m ³	43,559	△2	42,689	1. 節水の励行 2. 不必要な放水の禁止 3. 設備的漏水の撲滅 4. OJTによる使用管理の意識向上	1. 節水のポスターを掲示した 2. 設備的漏水のない事を確認した
化学物質 使用量	kg	16	-	-	1. 化学物質適正管理作業手順書に従い管理 2. 取扱責任者の教育を実施 3. 数量管理の徹底 4. 使用意識の定着と使用回避の方策の検討	1. 化学物質適正管理作業手順書に従い管理した 2. 数量管理を徹底した
グリーン購入 の推進	%	25.3	+2	25.8	1. グリーン購入法適合品の購入徹底 (リサイクルカット判コピー用紙、文具) 2. グリーン対象品の購入比率をアップする	グリーン購入法適合品の購入を徹底した

表-5.4 環境営計画に基づき実施した取組内容【茨城工場】

環境負荷項目	単位	基準年実績 2017年度	2019年度目標		環境経営計画	実施した取組内容
			(%)	目標値		
購入電力	kWh	803,336	△2	787,269	1. 昼休み時、不必要時の事務所、工場内、休憩所の消灯の徹底 2. エアコンの設定温度目安の設定 (夏：28度、冬20度) 他クールビズ、ウォームビズの取組継続 3. 工場内へのLED照明の導入 4. 生産計画(工程)の検証と改善を継続実施し、生産性の向上を図る。	1. 昼休み時、不必要時の事務所、工場内、休憩所の消灯を徹底した 2. 体感温度の目安を厳守した 3. 工場内照明のLED化を実施した
ガソリン 使用量	L	1,334	△2	1,307	1. アイドリングストップ 2. 急発進、急加速をしない 3. タイヤ空気圧の適宜確認	1. アイドリングストップを実施した 2. 急発進、急加速をやめた 3. タイヤ空気圧の確認を実施した
軽油使用量	L	7,841	△2	7,684	1. アイドリングストップ 2. 急発進、急加速をしない 3. タイヤ空気圧の適宜確認	1. アイドリングストップを実施した 2. 急発進、急加速をやめるよう指導した 3. タイヤ空気圧の確認を実施した
A重油使用量	L	385,900	△2	378,182	1. 外気温管理による養生有無の適正管理 2. 断熱効率の良い養生シートの使用又は養生方法を検討する	外気温による適正管理を実施した
一般廃棄物 排出量	kg	2,766	△2	2,711	1. 個人ごみの持ち込み廃棄厳禁 2. コピー用紙の有効利用の推進(裏紙の利用等) 3. ゴミの分別徹底 4. リサイクル活動の推進	1. 個人ごみ持ち込み廃棄を禁止した 2. 不要な印刷を削減した 3. ゴミの分別を徹底した
産業廃棄物 排出量	ton	2,379	△2	2,331	1. 作業ミスによる廃棄物量の削減 2. リデュース、リユース、リサイクルの3R活動推進	作業ミスによる廃棄物量の削減に努めて
水使用量	m ³	21,902	△2	21,464	1. 節水の励行(蛇口はきちんと閉める等) 2. 漏水がないよう適宜点検を行い、未然に防ぐ 3. 生産計画(工程)の検証と改善を継続実施し、生産性の向上を図る	1. 節水の励行を実施した 2. 漏水がないよう点検を実施した
化学物質 使用量	kg	69	-	-	1. 化学物質適正管理作業手順の遵守 2. 取扱責任者の教育実施 3. 数量管理の徹底	1. 化学物質適正管理作業手順書に従い管理した 2. 数量管理を徹底した
グリーン購入 の推進	%	38.3	+2	39.1	1. グリーン購入法適合品 (リサイクルカット判コピー用紙、文房具)の購入徹底	グリーン購入法適合品の購入を徹底した

表-5.5 環境営計画に基づき実施した取組内容【工事部】

環境負荷項目	単位	基準年実績 2017年度	2019年度目標		環境経営計画	実施した取組内容
			(%)	目標値		
購入電力	kWh	28,636	△2	28,063	1. 昼休み時、不必要時の事務所、現場内、休憩所の消灯を徹底する 2. エアコンの設定温度目安の設定 (夏：28度、冬20度) 他クールビズ、ウォームビズの取組継続 3. 工程の短縮による仮設電気の早期撤去 4. 工種や使用工具の消費電力を調査し対策を講じる	1. 昼休み時、不必要時の事務所、現場内、休憩所の消灯を徹底した 2. 体感温度の目安を厳守した 3. 工程の短縮による仮設電気の早期撤去を検討し実施した
ガソリン 使用量	L	528	△2	517	1. アイドリングストップ 2. 急発進、急加速をしない 3. タイヤ空気圧の適宜確認 4. 通勤には公共機関を利用する	通勤には公共機関を利用する
産業廃棄物 排出量	ton	303	△2	297	1. 作業ミスによる廃棄物量の削減 2. 分別の徹底 3. 搬入資材の梱包の簡素化 4. 一般ゴミの持ち帰り 5. 廃棄物の分別収集の徹底 6. 廃棄物の資源化	1. 作業ミスによる廃棄物削減を徹底した 2. 搬入資材の梱包の簡素化を協力会社へ指導した 3. 一般ゴミの持ち帰りを徹底した 4. 廃棄物の分別収集を徹底した
水使用量	m ³	684	△2	670	1. 高圧洗浄機の漏水防止の為、漏水防止つきノズルを使用 2. 高圧洗浄機を使用する作業を短期に集中して行うように作業計画を作成する 3. 手洗い所の蛇口への節水コマの取り付け	1. 高圧洗浄機の漏水防止の為、漏水防止つきノズルを使用した 2. 高圧洗浄機を使用する作業を短期に集中して行うように作業計画を作成した
グリーン購入 の推進	%	20.6	+2	21.0	1. グリーン購入法適合品(リサイクルカット判コピー用紙、文房具)の購入徹底	グリーン購入法適合品の購入を徹底した
環境対策工事、 環境対策部材製 造の提案又は実 施した件数	件	2		2	1. UR都市機構の入札時に、「環境配慮に関する取組み」を積極的に提案する 2. 環境負荷低減につながる工事及び部材製造を積極的に実施する	UR都市機構の入札時に、「環境配慮に関する取組み」を提案した。

6. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価

各サイトの2019年4月から2020年3月までの、環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価を表-6.1から表-6.5に、図-6.1に年度別エネルギー使用量、図-6.2にCO2排出量、図-6.3に環境負荷の排出量及び使用量を示す。

表-6.1 環境経営計画の実績・取組結果とその評価【本店】

環境負荷項目		基準年実績 2017年度	2019年度目標		取組結果		評価
			(%)	目標値	(%)	実績値	
エネルギー 使用量	購入電力	46,904 kWh	-2	45,966 kWh	-6.8	43,697 kWh	目標達成
	ガソリン 使用量	11,379 L	-2	11,151 L	-42.8	6,512 L	目標達成
CO2 排出量	総量 (ton-CO2)	49	-2	48	-26.3	36	目標達成
	原単位 (ton-CO2/人)	1.134	-2	1.112	-31.1	0.782	目標達成
廃棄物 排出量	一般廃棄物 排出量	3,576 kg	-2	3,504 kg	-27.7	2,584 kg	目標達成
グリーン購入の推進		71.4 %	+2	72.8 %	+18.7	84.7 %	目標達成

表-6.2 環境経営計画の実績・取組結果とその評価【栃木工場】

環境負荷項目		基準年実績 2017年度	2019年度目標		取組結果		評価
			(%)	目標値	(%)	実績値	
エネルギー 使用量	購入電力	1,279,480 kWh	-2	1,253,890 kWh	-3.1	1,239,741 kWh	目標達成
	ガソリン 使用量	11,035 L	-2	10,814 L	-20.2	8,805 L	目標達成
	軽油使用量	56,860 L	-2	55,723 L	-6.1	53,415 L	目標達成
	プロパンガス 使用量	1,835 kg	-2	1,798 kg	-10.1	1,650 kg	目標達成
CO2 排出量	総量 (ton-CO2)	638	-2	625	-4.5	609	目標達成
	原単位 (ton-CO2/m ³)	0.199	-2	0.195	+1.8	0.203	目標未達
廃棄物 排出量	一般廃棄物 排出量	4,200 kg	-2	4,116 kg	+20.5	5,063 kg	目標未達
	産業廃棄物 排出量	5,211 ton	-2	5,107 ton	+13.3	5,906 ton	目標未達
水使用量		43,559 m ³	-2	42,689 m ³	+31.1	57,111 m ³	目標未達
化学物質使用量		16 kg	—	—	—	27 kg	—
グリーン購入の推進		25.3 %	+2	25.8 %	+34.4	34.0 %	目標達成

表-6.3 環境経営計画の実績・取組結果とその評価【茨城工場】

環境負荷項目		基準年実績 2017年度	2019年度目標		取組結果		評価
			(%)	目標値	(%)	実績値	
エネルギー 使用量	購入 電力	803,336 kWh	-2	787,269 kWh	+6.4	854,800 kWh	目標未達
	ガソリン 使用量	1,334 L	-2	1,307 L	+30.9	1,746 L	目標未達
	軽油使用量	7,841 L	-2	7,684 L	+34.0	10,506 L	目標未達
	A重油使用量	385,900 L	-2	378,182 L	+22.5	472,800 L	目標未達
CO2 排出量	総量 (ton-CO2)	1,357	-2	1,330	+19.3	1,619	目標未達
	原単位 (ton-CO2/m ³)	0.590	-2	0.578	+7.1	0.632	目標未達
廃棄物 排出量	一般廃棄物 排出量	2,766 kg	-2	2,711 kg	+82.2	5,041 kg	目標未達
	産業廃棄物 排出量	2,379 ton	-2	2,331 ton	+32.7	3,156 ton	目標未達
水使用量		21,902 m ³	-2	21,464 m ³	-2.7	21,301 m ³	目標未達
化学物質使用量		69 kg	—	—	—	459 kg	—
グリーン購入の推進		38.3 %	+2	39.1 %	+68.7	64.7 %	目標達成

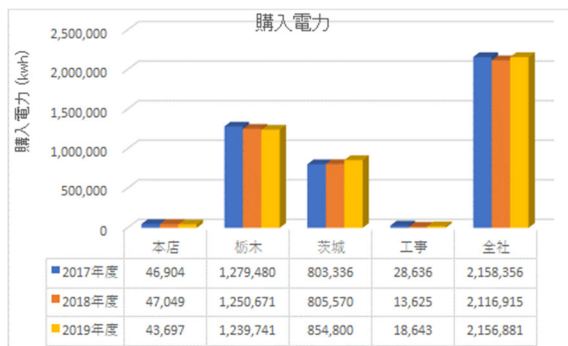
表-6.4 環境経営計画の実績・取組結果とその評価【工事部】

環境負荷項目		基準年実績 2017年度	2019年度目標		取組結果		評価
			(%)	目標値	(%)	実績値	
エネルギー 使用量	購入 電力	28,636 kWh	-2	28,063 kWh	-34.9	18,643 kWh	目標達成
	ガソリン 使用量	528 L	-2	517 L	—	0 L	目標達成
CO2 排出量	総量 (ton-CO2)	15	-2	15	-40.9	9	目標達成
	原単位 (ton-CO2/M ³)	0.387	-2	0.379	-21.4	0.304	目標達成
廃棄物 排出量	産業廃棄物 排出量	303 ton	-2	297 ton	-20.1	242 ton	目標達成
水使用量		684 m ³	-2	670 m ³	-46.6	365 m ³	目標達成
グリーン購入の推進		20.6 %	+2	21.0 %	+172	56.0 %	目標達成

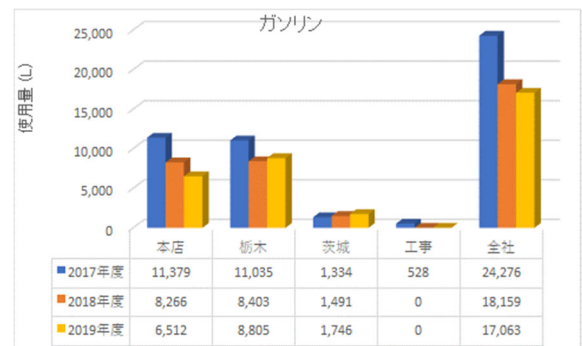
表-6.5 環境経営計画の実績・取組結果とその評価【全社】

環境負荷項目		基準年実績 2017年度	2019年度目標		取組結果		評価
			(%)	目標値	(%)	実績値	
エネルギー 使用量	購入電力	2,158,356 kWh	-2	2,115,189 kWh	-0.1	2,156,881 kWh	目標未達
	ガソリン 使用量	24,276 L	-2	23,790 L	-29.7	17,063 L	目標達成
	軽油 使用量	64,762 L	-2	63,467 L	-1.3	63,921 L	目標未達
	A重油 使用量	385,900 L	-2	378,182 L	+22.5	472,800 L	目標未達
	プロパンガス 使用量	1,851 kg	-2	1,814 kg	-9.4	1,677 kg	目標達成
CO2 排出量	総量 (ton-CO2)	2,059 (1,013)	-2	2,017 (993)	+10.4 (-2.1)	2,273 (991)	目標未達 (目標達成)
	原単位 (ton-CO2/M¥)	22.9 (11.3)	-2	22.4 (11.0)	+15.5 (+2.4)	26.4 (11.5)	目標未達
廃棄物 排出量	一般廃棄物 排出量	10,542 kg	-2	10,331 kg	+20.4	12,688 kg	目標未達
	産業廃棄物 排出量	7,893 ton	-2	7,735 ton	+17.9	9,304 ton	目標未達
水使用量		66,144 m3	-2	64,821 m3	+19.1	78,777 m3	目標未達
化学物質使用量		85 kg	-	-	-	486 kg	-
グリーン購入の推進		42.0 %	+2	42.9 %	+41.0	59.3 %	目標達成
工事及び製造		2		2		2	目標達成

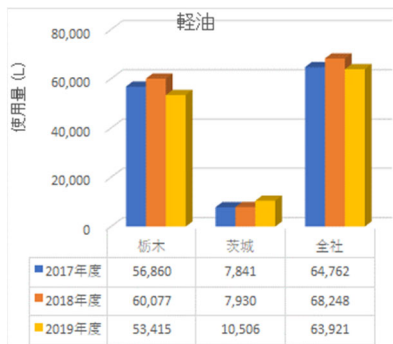
※ CO2 排出量の () 内数値は、全エネルギー使用量からA重油使用量を減じた値である。



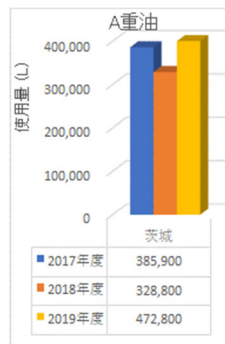
(A) 購入電力



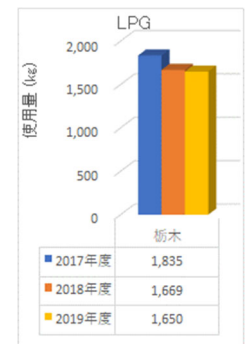
(B) ガソリン



(C) 軽油

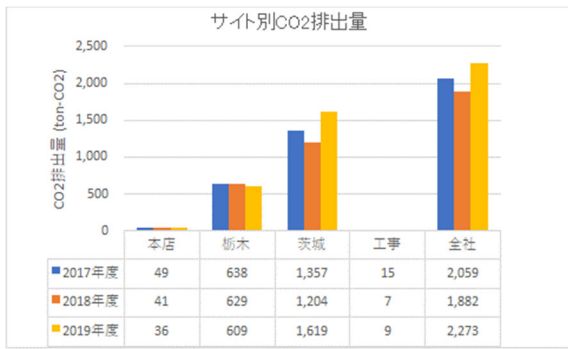


(D) A重油

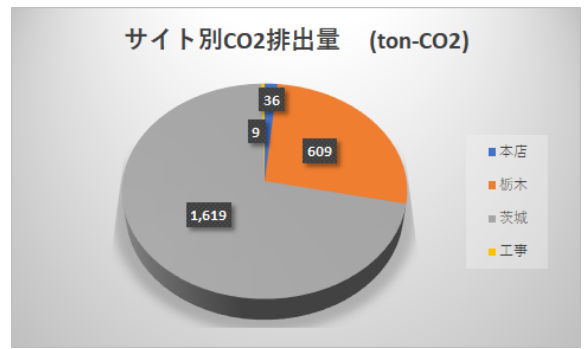


(E) LPG

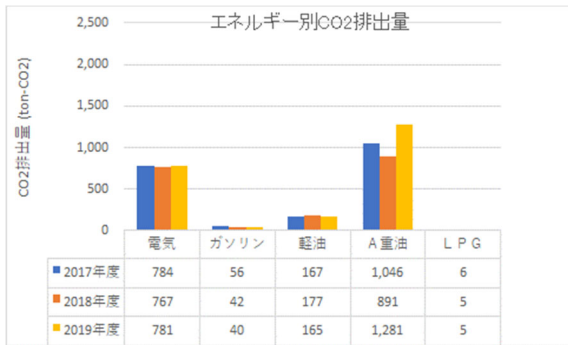
図-6.1 年度別エネルギー使用量



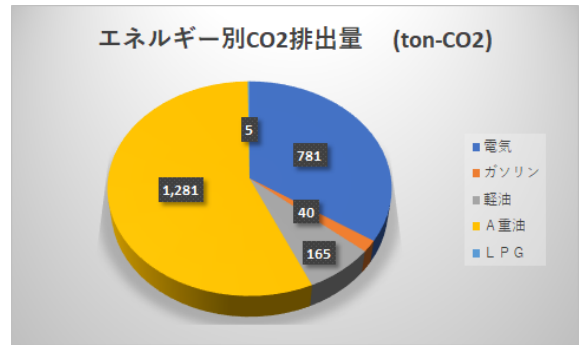
(A) サイト別CO2排出量



(B) 2019年度サイト別CO2排出量

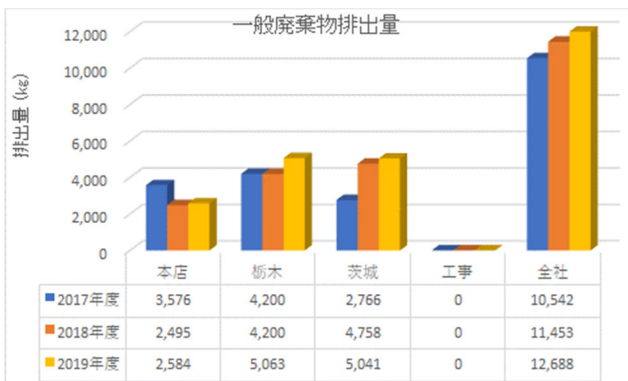


(C) エネルギー別CO2排出量

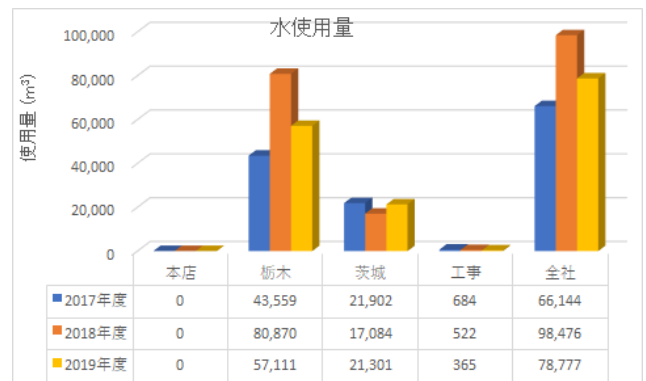


(D) 2019年度エネルギー別CO2排出量

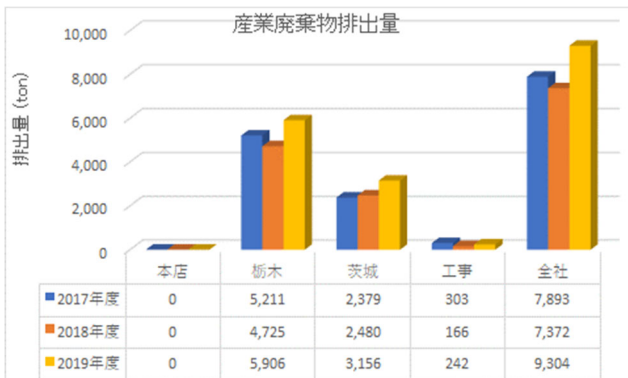
図-6.2 CO2排出量



(A) 一般廃棄物排出量



(B) 水使用量



(C) 産業廃棄物排出量



(D) 産業廃棄物最終処分量・再資源化量

図-6.3 環境負荷の排出量及び使用量

7. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

各サイトの2020年4月から2021年3月までの、環境経営目標及び環境経営計画を表-7.1から表-7.4に示す。

表-7.1 次年度の環境経営目標と環境経営計画【本店】

環境負荷項目	単位	基準 2017年度	2020年度の環境経営目標		次年度の環境経営計画
			(%)	目標数値	
購入電力	kWh	46,904	△7.8	43,260	1. 昼休み時、不必要時の事務所消灯の徹底 2. クールビズ、ウォームビズの取組継続
ガソリン使用量	L	11,379	△43.3	6,447	1. エコ安全運転講習会への参加やエコ安全運転の情報収集 2. 営業車両利用時の業務効率化 (営業車両の効率的利用や公共交通機関の利用)
一般廃棄物 排出量	kg	3,576	△28.4	2,559	1. 両面・縮小コピーの有効利用 2. 社内届出、会議のペーパーレス化に取組む

表-7.2 次年度の環境経営目標と環境経営計画【栃木工場】

環境負荷項目	単位	基準 2017年度	2020年度の環境経営目標		次年度の環境経営計画
			(%)	目標数値	
購入電力	kWh	1,279,480	△4.1	1,227,344	1. 昼休み時、不必要時の事務所、工場内、休憩所の消灯の徹底 2. エアコンの設定温度目安の設定 (夏期：28℃、冬期：20℃) 他クールビズ、ウォームビズの取組継続 3. 工場内照明の見直し及びLEDの積極的な導入
ガソリン使用量	L	11,035	△21.0	8,717	1. 営業車両利用時の業務効率化 (効率的利用経路) 2. アイドリングストップの励行
軽油使用量	L	56,860	△7.0	52,880	1. プラント周辺でのコン待ち待機時のアイドリングストップの徹底 2. 場内速度の厳守
プロパンガス 使用量	kg	1,835	△11.0	1,634	1. 外気温管理による養生有無の適正管理 2. 蒸気漏れ等、設備からのロスの低減
一般廃棄物 排出量	kg	4,200	+19.3	5,012	1. 個人ごみの持ち込み廃棄厳禁 2. コピー用紙の有効利用の推進
産業廃棄物 排出量	ton	5,211	+12.2	5,847	1. 廃棄物分別の強化 2. 定期的な処分費の公開による意識改革実施 3. コンクリートロスの低減、資材発注時の無駄の排除
水使用量	m ³	43,559	+29.8	56,539	1. 節水の励行 2. 不必要な放水の禁止 3. 設備的漏水の撲滅
化学物質 使用量	kg	16	—	—	1. 化学物質適正管理作業手順書に従い管理 2. 数量管理の徹底

表-7.3 次年度の環境経営目標と環境経営計画【茨城工場】

環境負荷項目	単位	基準 2017年度	2020年度の環境経営目標		次年度の環境経営計画
			(%)	目標数値	
購入電力	kWh	803,336	+5.3	846,252	1. 昼休み時、不必要時の事務所、工場内、休憩所の消灯の徹底 2. エアコンの設定温度目安の設定 (夏：28度、冬20度) 他クールビズ、ウォームビズの取組継続 3. 工場内へのLED照明の導入
ガソリン使用量	L	1,334	+29.6	1,729	1. アイドリングストップ 2. 急発進、急加速をしない
軽油使用量	L	7,841	+32.6	10,400	1. アイドリングストップ 2. 急発進、急加速をしない
A重油使用量	L	385,900	±0	385,900	1. 外気温管理による養生有無の適正管理 2. 蒸気漏れ等、設備からのロスの低減
一般廃棄物 排出量	kg	2,766	+80.4	4,991	1. 個人ごみの持ち込み廃棄厳禁 2. コピー用紙の有効利用の推進(裏紙の利用等) 3. ゴミの分別徹底
産業廃棄物 排出量	ton	2,379	+31.3	3,124	1. 作業ミスによる廃棄物量の削減 2. リデュース、リユース、リサイクルの3R活動推進
水使用量	m ³	21,902	△3.7	21,088	1. 節水の励行(蛇口はきちんと閉める等) 2. 漏水がないよう適宜点検を行い、未然に防ぐ
化学物質 使用量	kg	69	—	—	1. 化学物質適正管理作業手順の遵守 2. 数量管理の徹底

表-7.4 次年度の環境経営目標と環境経営計画【工事部】

環境負荷項目	単位	基準 2017年度	2020年度の環境経営目標		次年度の環境経営計画
			(%)	目標数値	
購入電力	kWh	28,636	△35.5	18,456	1. 昼休み時、不必要時の事務所、現場内、休憩所の消灯を徹底する 2. エアコンの設定温度目安の設定 (夏：28度、冬20度) 他クールビズ、ウォームビズの取組継続 3. 工程の短縮による仮設電気の早期撤去
ガソリン使用量	L	528	—	0	1. アイドリングストップ 2. 急発進、急加速をしない 3. 通勤には公共機関を利用する
産業廃棄物 排出量	ton	303	△20.8	240	1. 作業ミスによる廃棄物量の削減 2. 搬入資材の梱包の簡素化 3. 一般ゴミの持ち帰り 4. 廃棄物の分別収集の徹底 5. 廃棄物の資源化
水使用量	m ³	684	△47.2	361	1. 高圧洗浄機の漏水防止の為、漏水防止つきノズルを使用する 2. 高圧洗浄機を使用する作業を短期に集中して行うように作業計画を作成する 3. 手洗い所の蛇口への節水コマの取り付け
環境対策工事、環境対策部材製造の提案又は実施した件数	件	2		2	1. UR都市機構の入札時に、「環境配慮に関する取組み」を積極的に提案する 2. 環境負荷低減につながる工事及び部材製造を積極的に実施する

8. 火災訓練状況

各サイトにおいて実施した 2019 年度の火災訓練実施状況を図-8.1 に示した。



(A) 栃木工場 (消火活動)



(B) 茨城工場 (消火活動)



(C) 栃木工場 (けが人搬送)



(D) 茨城工場 (けが人搬送)

図-8.1 火災訓練状況

9. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟など

当社に適用される主な環境関連法規は表-8.1に示す通りで、4月1日～15日遵守評価の結果、これらへの違反はありませんでした。

なお、2019年度の関係当局よりの違反等の指摘はありませんでした。

表-9.1 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価の結果

適用環境関連法規等	適用される事項 (事業活動、施設、物質等)	遵守状況の確認・評価
騒音規制法	バンディングマシン せん断機 空気圧縮機 コンクリートプラント	届出・地域別基準遵守 問題なし
	特定建設作業	届出・地域別基準遵守 問題なし
振動規制法	せん断機 圧縮機	届出・地域別基準遵守 問題なし
	特定建設作業	届出・地域別基準遵守 問題なし
水質汚濁防止法	バッチャープラント 水養生施設（蒸気養生施設を含む）	届出・地域別基準遵守 問題なし
大気汚染防止法	ボイラー	届出・地域別基準遵守 問題なし
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物	ビル管理会社処理等 問題なし
	産業廃棄物	委託契約・標識設置等 問題なし
		多量排出事業者
建設工事に係る資材の再資源化に関する法律	特定建設資材	届出等 問題なし
消防法	危険物の規制	届出・法定点検 問題なし
	甲種防火対象物	届出・点検 問題なし

10. 代表者による全体の評価と見直し・指示

2019年度は、2018年度に続き、2017年の合併後の2017年度通年実績を基準値として取り組み正確な目標評価、数値比較をすることが出来た。環境活動継続により、環境経営システムへの意識も益々向上している。

次年度もさらに全社一丸となってエコアクション2.1に取組み、達成出来なかった環境経営目標については、環境経営計画の取組内容をより具体化且つ強化し成果を上げていきたい。

(以上)